

【部会名】女性部会

【タイトル】9月研修会

【日時】平成20年9月18日(木) PM1:30~3:30

【場所】法人会館

【演題】「税のよもやま話・郷土の偉人」

【講師】松ヶ谷 法人課税第一統括官



【概要】

冒頭、「ご主人が経営されている場合、ご主人にそこそこお小遣いを渡しといて下さい」とお願い。

現場が長く、とても良い社長なのに、奥さんに内緒で売上をごまかしてしまうケースがある。仕事の節目に従業員を連れて一杯やってあげたいのが社長の人情。従業員の立場からだと、領収証では会社の経費で社長にご馳走になった事になり、有難みが半減。ポケットマネーであれば、社長の為に頑張ろうという心情になる。よって「少し余裕のお小遣いを」と説かれた。

但し税務は厳しいので「会社の経費については、領収証がなければいけない」とお願いをされた。



続いて自己紹介から郷土の話へ。

あの天保水滸伝(下総の利根川周辺の侠客の争い) 飯岡助五郎と笹川繁蔵の縄張りの間で生まれた。利根川と江戸川、関東平野の三角州に位置し、土地が肥沃で気候温暖。「千葉の女が乳搾り」という言葉は、男が汗水たらして働かなくても物が育ってしまう為、女手でも生活が出来る。楽しく食っていこうとする輩が育ちやすい。土壌・土地柄から、男が働かないから女が働き者という意味である。

18歳で研修所の寮生活をする為、家を出た。郷土の偉人で同じく18歳で家を出て、農村改革・耕地への分散移転をした、世界最古の協同組合の創設者 大原幽学と、56歳にして幕府の命令で全国測量をやり遂げ 地図完成2年前で亡くなった 伊能忠敬の2人を挙げられた。

終始飾らない口調で、歴史・郷土・人情を混じえ、質問コーナーでは、人間として遊びの部分の大切さや奥様との出会いなど、笑いあいの楽しい研修会となった。

